

令和7年度  
市民活動団体の現状に関する  
アンケート調査報告書

令和8(2026)年5月15日発行

ひらつか市民活動センター

(管理運営団体：NPO 法人湘南 NPO サポートセンター)

〒254-0045 平塚市見附町 1-8

TEL 0463-31-7571 FAX 0463-35-6601

Eメール info@hiratsuka-shimin.net

URL <http://hiratsuka-shimin.net>



## 市民活動団体の皆様へ

日頃よりひらつか市民活動センターをご利用いただき、誠にありがとうございます。  
この度は「市民活動団体の現状に関するアンケート」にご協力いただき心より感謝申し上げます。  
集計がまとまりましたのでご報告いたします。  
今回の結果を基に当センターの運営に反映させていただきます。

**調査期間：**2026年1月15日（木）から2月20日（金）

**質問送付先団体：**332団体

**うち回答団体数：**169団体（51%）

**設問内容：**①団体名 ②法人格 ③回答者の役職 ④活動分野 ⑤会員数 ⑥会員の平均年齢  
⑦活動頻度 ⑧主な収入源 ⑨主な支出内容 ⑩特に注力すべき課題  
⑩-1 人確保と育成の具体的内容 ⑩-2 情報発信力強化の具体的内容  
⑩-3 収入源の増加の具体的内容 ⑪今後必要と思われる支援策  
⑫活用しているセンター施設 ⑬センターを利用される理由  
⑭センターに特に力を入れて欲しいもの ⑮センターに期待する支援策  
⑯防災における連携・協力の可能性 ⑰どのような局面で連携・協力ができるか  
⑱防災に関してどのような支援が必要か ⑲市民活動支援に関するご要望

### アンケート結果の概略

#### ■活動分野■

上位4件は昨年度と同順で、「保険・医療・福祉」の分野が44団体26.0%(29.9%)、「芸術、文化、芸術またはスポーツの振興」が31団体18.3%(21.3%)、「子どもの健全教育」が29団体17.2%（14.6%）、「まちづくりの推進」が19団体11.2%（9.8%）となっており（カッコ内は前年度）、前年度より「子どもの健全教育」「まちづくりの推進」に関する活動は、団体数、構成比率とも増加傾向にあります。

#### ■会員規模■

会員数は回答のあった164団体のうち20名以下の団体が約半数（10名以下が27%、11名から20名が21%）、51名以上の大規模団体がほぼ4分の1（26%）となっており、規模の二極化が見られます。

#### ■平均年齢■

169団体のうち、平均年齢の回答があった144団体については、60代が最も多く53団体（母数144の37%）、次いで70代39団体（同27%）で80代以上の5団体を含めた60代以上の団体が144団体のほぼ3分の2の67%を占めています。

#### ■活動頻度■

**【全体】**活動の頻度は169団体のうち半数が毎月1回から数回（月に数回：50団体29.9%、月1回：36団体21.5%）は活動されていることが分かりました。

**【世代別】**年齢層で見ると、60代以上では週単位の活動が多い傾向にあり、特に60代では週5回以上と答えられた団体が53団体中19団体（34%）となっています。一方で50代以下では月単位と他の世代より比較的頻度が少ない傾向が見られますがこれはメンバーの仕事や家庭との両立によるものと推察します。

#### ■主な収入源■

主な収入源のうち事業収入が占める割合は10%と前年度(13%)より減少傾向にある一方で、民間助成金の比率が6%と前年度4%、前々年度3%と増加傾向が見られます。なお、最上位を占める会費、寄附金・賛助金・協賛金の比率は60%で大きな変化は見られませんでした（前年度60%）。

## ■主な支出■

全体としては消耗品が19%、印刷費16%、通信費13%となっています。通信費は前々年度11%、前年度12%、今年度13%と、Web管理費、広告宣伝費とともに増加傾向にあります。一方で人件費については年度を追うごとに減少する傾向にあり、「人材の確保と育成」を課題としている団体が増えていることとの関係が推察されます。

## ■今後に向けて特に取り組みが必要な課題■

【全体】アンケートに回答された全169団体のうち、68%の団体が「人材の確保と育成」と回答されています。次いで、37%が「情報発信・広報活動の強化」と回答されており、以下、2割以上の団体が「取り組みが必要」と答えた課題は、「行政との連携」、「地域・他団体の連携」、「活動場所の確保」となっています。

一方で14%の団体が「課題は特になし、現状通り」と答えられています。

【世代別】平均年齢が50代以下の団体では「人材確保・育成」、「情報発信」、「地域・他団体との連携」に続き、「収入源の確保」と、「組織の仕組み固め」について2割を超える団体が課題と答えています。また「課題は特になし」と答えられた団体の比率は50代以下では9%、60代15%、70代以上では16%となっています。

### ■課題－1 人材確保と育成について■

「人材確保と育成」が課題と回答した112団体のうち、72%が「活動の中心となるメンバーを増やす」、70%が「会員を増やす」を具体的な取り組み課題と回答されました。、それに続いて32%が「会員の知識やスキルアップ教育」を課題として回答されています。

### ■課題－2 情報発信、広報活動の強化について■

「情報発信、広報活動の強化」が課題と回答した62団体のうち、44%が「Web、SNSを使った情報発信の知識を学ぶ」を具体的な取り組み課題と回答されました。次いで39%が「Web、SNSによる情報発信スキルを持つ人材の確保」と回答されており、ほぼ4割以上の団体がWeb、SNSの技術強化に取り組むべきと考えられています。

### ■課題－3 収入源、資金調達方法増強について■

現在の課題としての「収入源、資金調達方法増強」の具体的な内容については、「企業などの協賛金を増やす」、「寄附を増やす」、「民間（財団など）の助成金を増やす」、「会費収入を増やす」の順となり、事業収入、行政からの補助・受託などによる増収は注目度が低めになりました。

## ■今後の活動に必要な支援策■

【全体】今後の活動に向けた支援が必要、と答えた団体においては、「地域との連携の為のノウハウ支援」、「オンライン活用のスキルアップ研修」、「助成金の紹介や活用に関するアドバイス」が上位3項目となっています。また、前年度までの回答と比べて「広報スキルアップ」がほぼ倍増した一方で、「資金調達のノウハウ」については大きく減少しました。

【世代別】平均年齢別でみると世代間で特徴的な差異が見られます。50代以下では「組織基盤の強化」、「資金調達のノウハウ」、「法人事務」などの組織運営にかかわる支援を必要と回答された団体が60代、70代以上の団体と比較して明らかに多くなっています。一方で、「広報のスキルアップ」、「オンラインの活用」を選択した団体については60代、70代以上の回答率が50代を上回る結果となっています。また、地域や他団体との連携について「必要」と回答する団体の比率は全世代で高い傾向にあります。行政、企業との協働については50代以下の団体に比べ、他世代の団体では低い傾向にあります。

## ■センターでの利用施設■

【全体】169団体の68%が会議室を利用すると答えており、続いてミーティングスペース38%、レターケース25%、印刷機24%、ロッカー21%、コピー機20%の順になっています。

【世代別】平均年齢50代以下の団体は会場場所を中心に利用方法が限定傾向にある一方、60代以上の団体ではそれに加えて印刷関連機器や、保管場所など多様な施設が活用されています。

平均年齢40代以下の団体で会議室を使うと答えたのは58%、次いでミーティングスペースが42%、50代は会議室70%、ミーティングスペース30%、印刷機26%で、双方とも他の施設の利用は20%未満になっています。一方、60代は会議室60%、ミーティングスペース45%、以下、印刷機、掲示コーナー、レターケース、コピー機が20%以上、また、70代以上では会議室75%、レターケース、ロッカー、ミーティングスペース、コピー機が30%以上、印刷機が20%以上となっています。

### ■センターを利用する理由■

回答のあった169団体のうち、70%の団体が「無料で会議室やスペースが使える」と答えられており、以下、30%以上の団体が理由に挙げられたのは、「会議室が予約できる」が58%、「立地」57%、「会議などに活動に必要な備品が揃う」33%、「WiFiが使える」31%となっています。

### ■今後センターに力を入れてほしいもの■

「活動・運営の支援」と答えた団体が15%、「団体からの情報発信の支援」が13%、「情報提供」13%、「講座、研修」11%となっています。なお、「協働・対話の場づくり」は年々減少傾向にあり、今年度は6%になっています。

### ■災害に対する平時からの連携・協力■

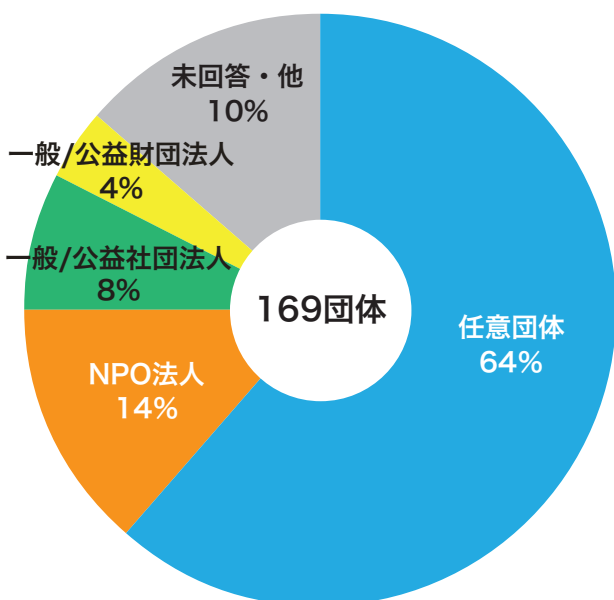
連携・協力が「できる」と回答された団体は前年度より5団体減の63団体となりましたが「協力できない」と回答された団体は前年度より12団体減の33団体にまで減少しています。その局面は、「災害発生前から」が20%、次いで「発生後」が18%、「発生時」16%、「いつでも」が3%と続きました。

### ■災害時に支援して欲しい内容■

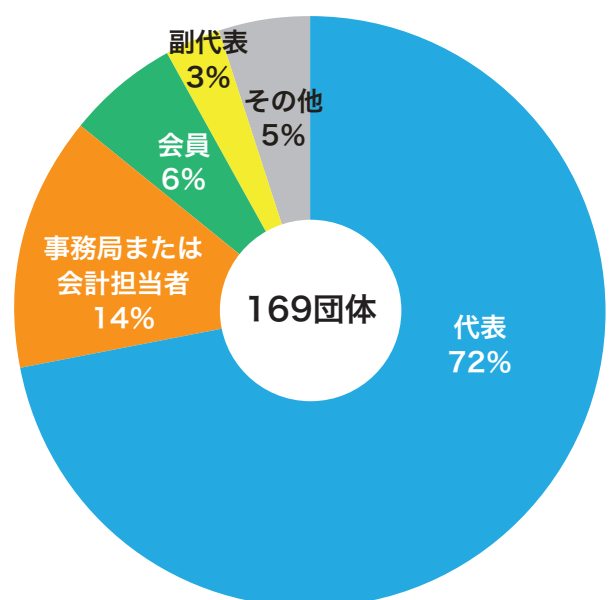
169団体のうち「特にない」、「思いつかない」と回答された69団体を除く100団体のうち、58%にあたる58団体が「高齢者・障がい者・子どもなどの支援」、24%が「災害対策等の勉強会」、15%が「瓦礫などの片付け」について支援をしてほしいと答えられました。

## 集計結果

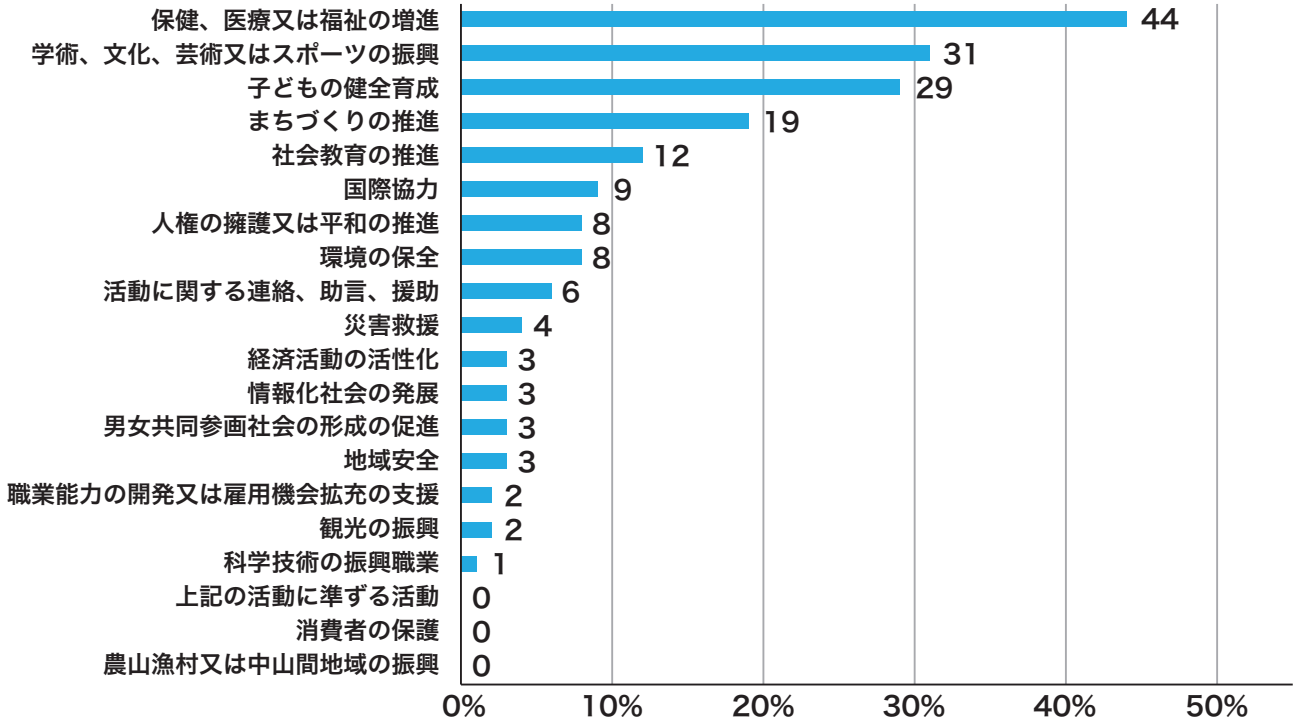
### 2. 法人格



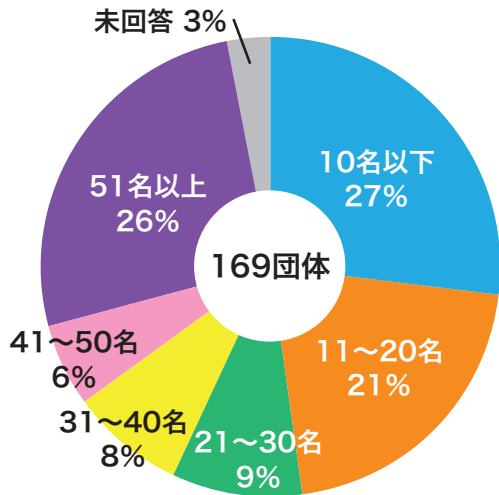
### 3. 回答者の役職



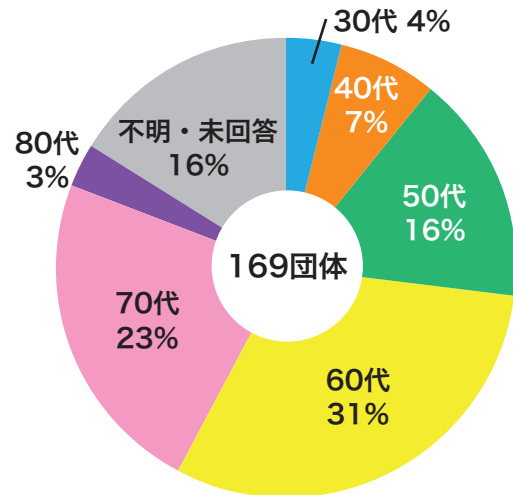
#### 4. 活動分野



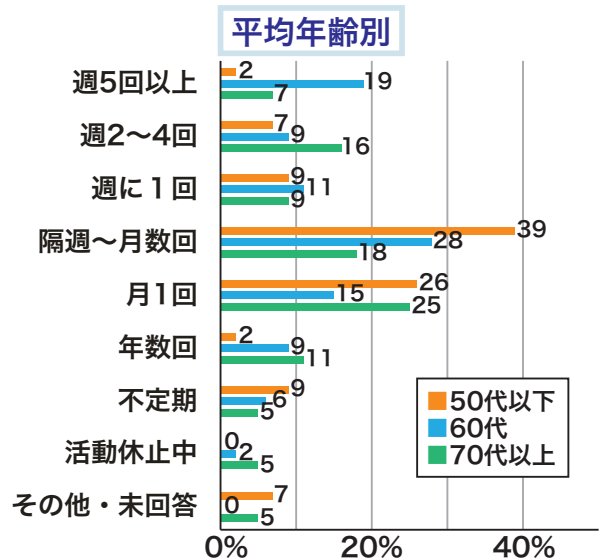
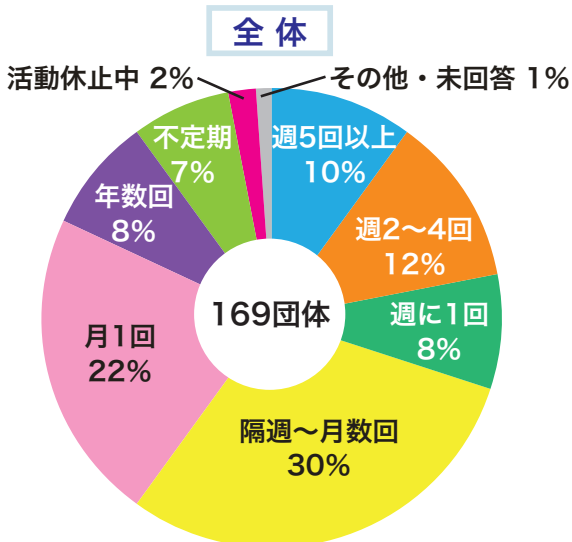
#### 5. 会員数



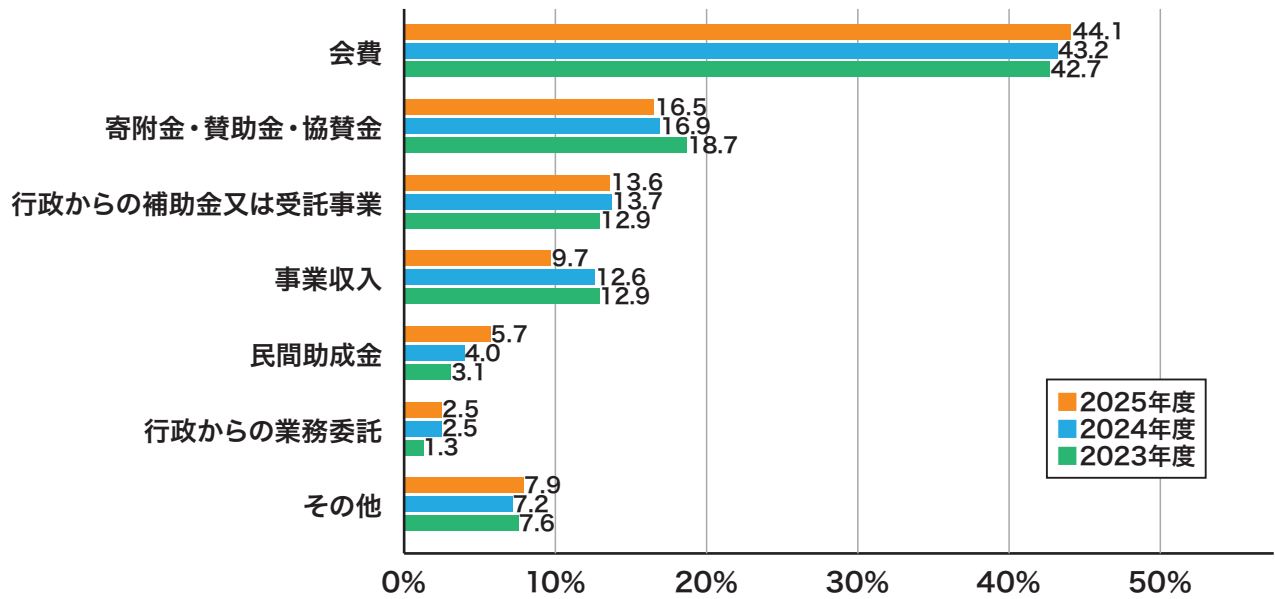
#### 6. 平均年齢



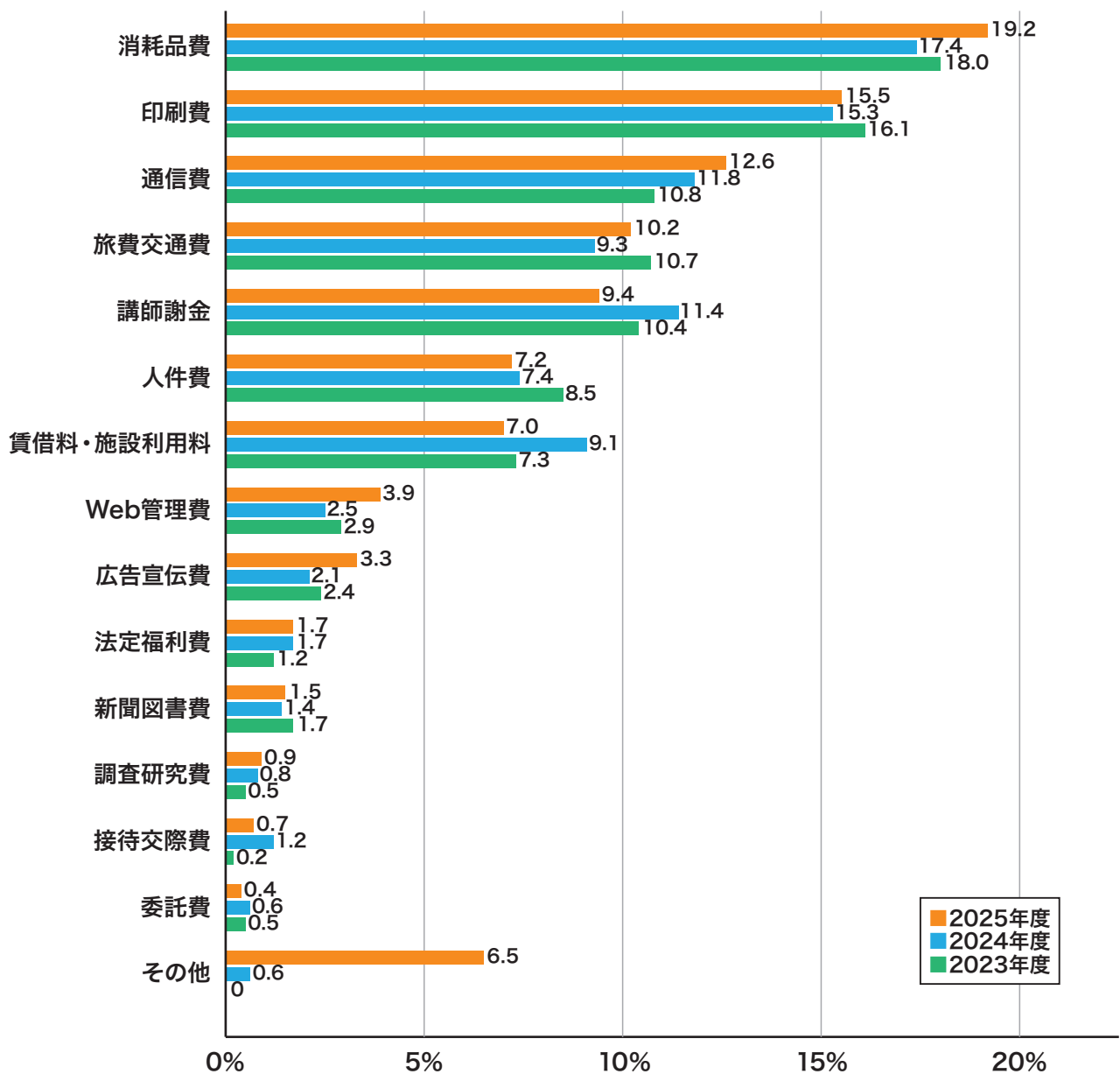
#### 7. 活動頻度



## 8. 主な収入源

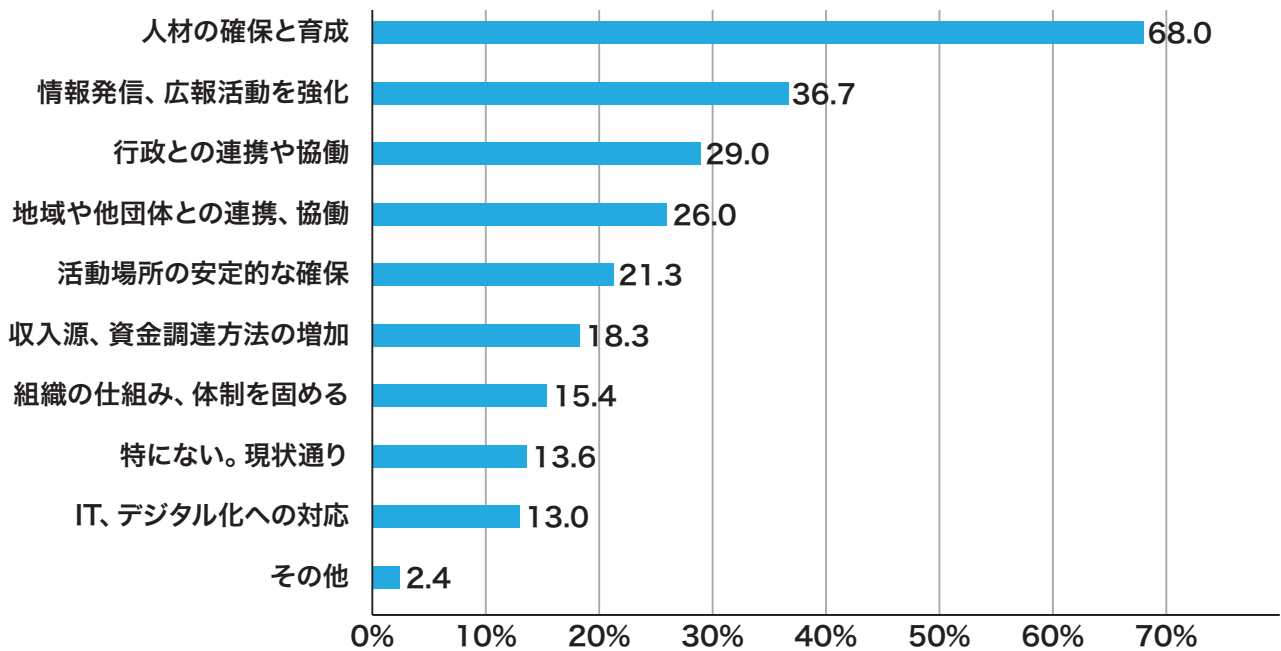


## 9. 主な支出

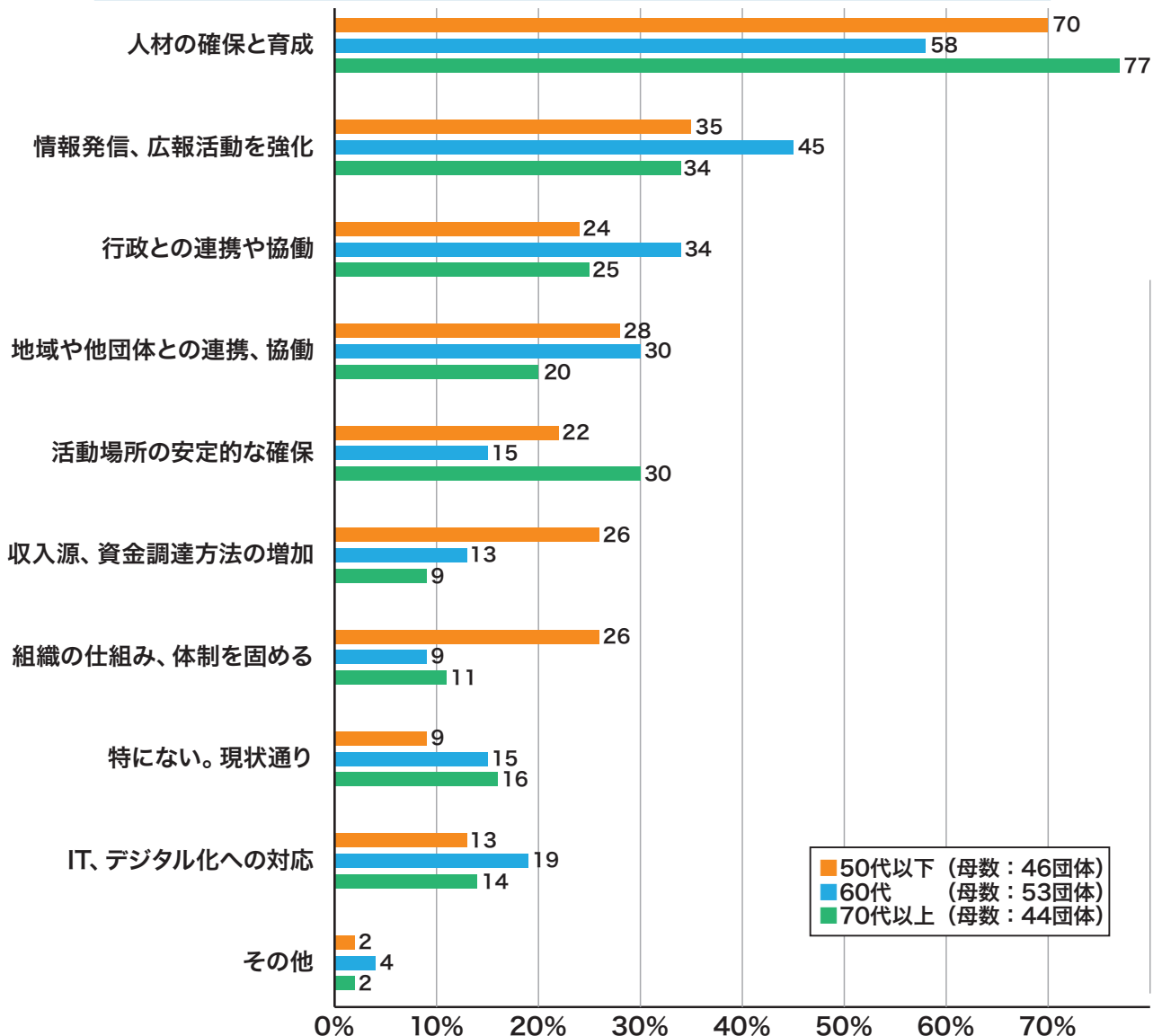


## 10. 今後の活動、運営において特に注力すべき事項

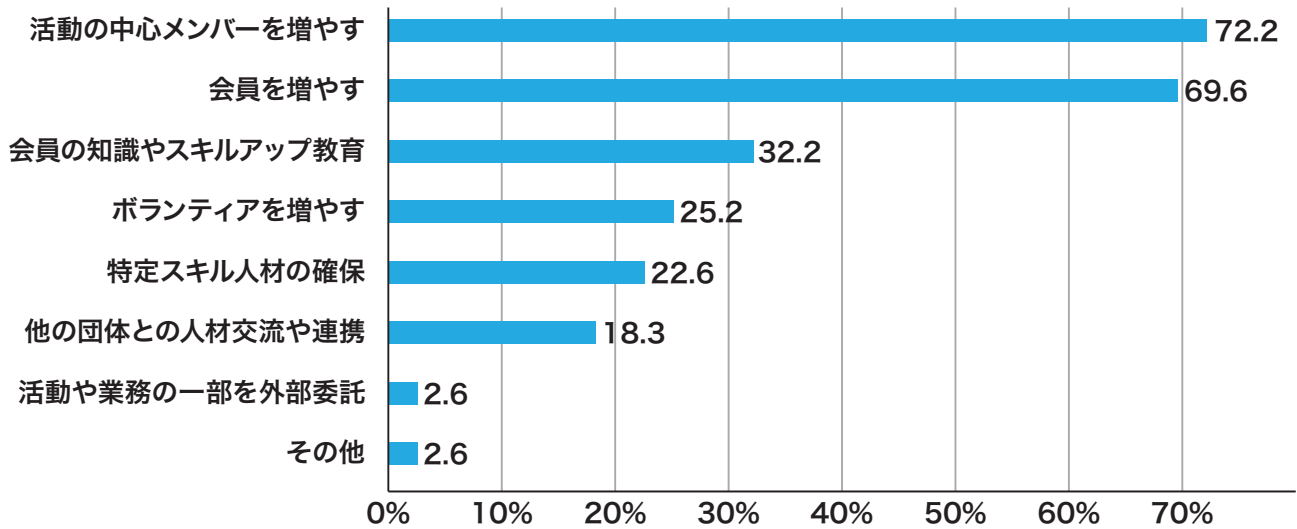
### 169 団体のうち各項目について「注力すべき」と回答した団体の割合



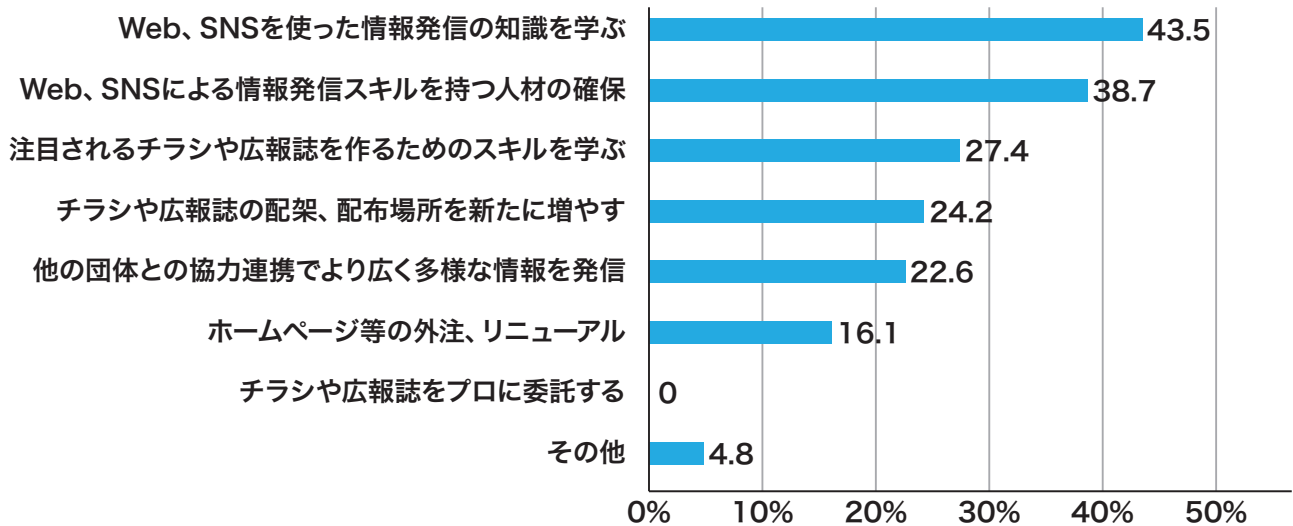
### 各項目について「注力すべき」と回答した団体の割合（世代別）



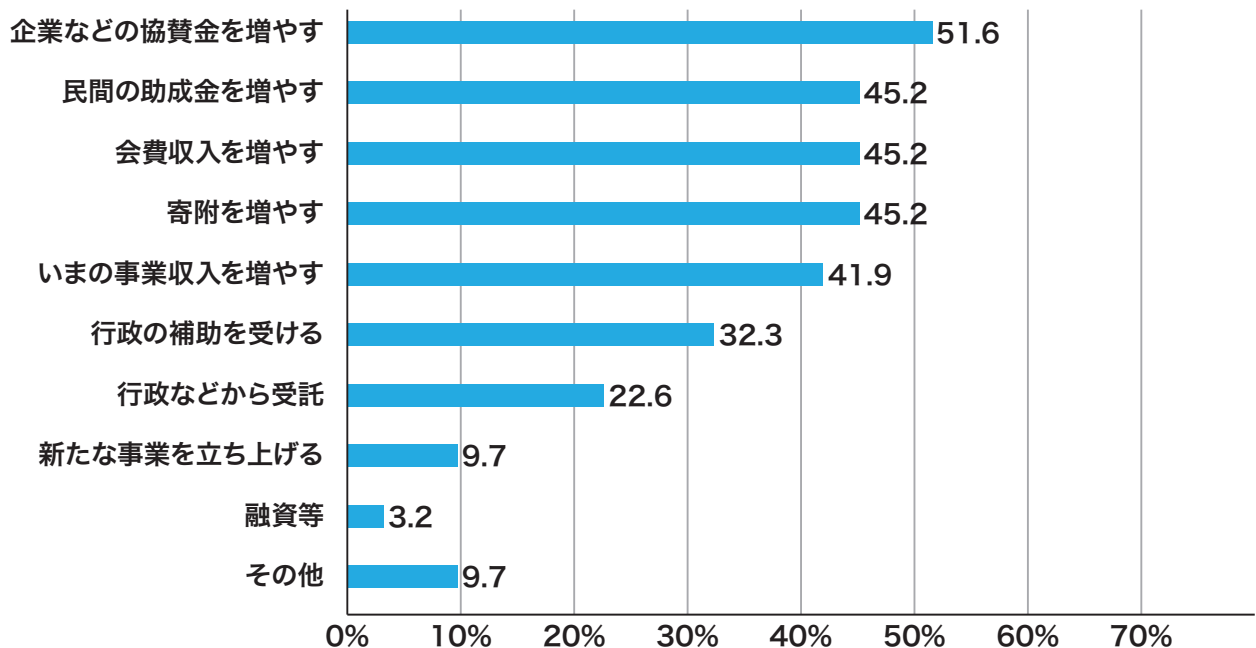
### 10-1：人材の確保と育成を課題とした112団体が必要と考える取り組み



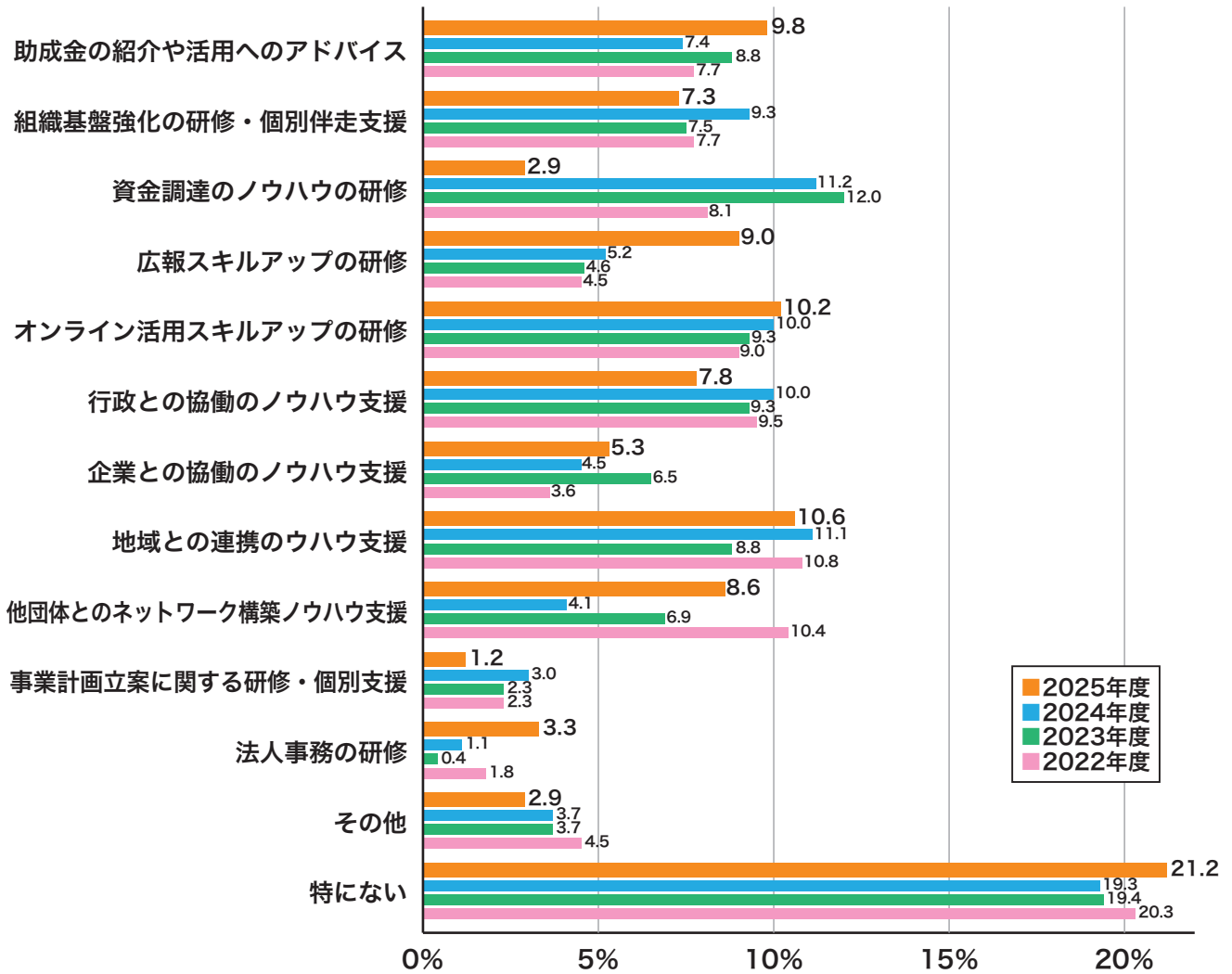
### 10-2：情報発信、広報活動を課題とした団体（62団体）が選択した取り組み



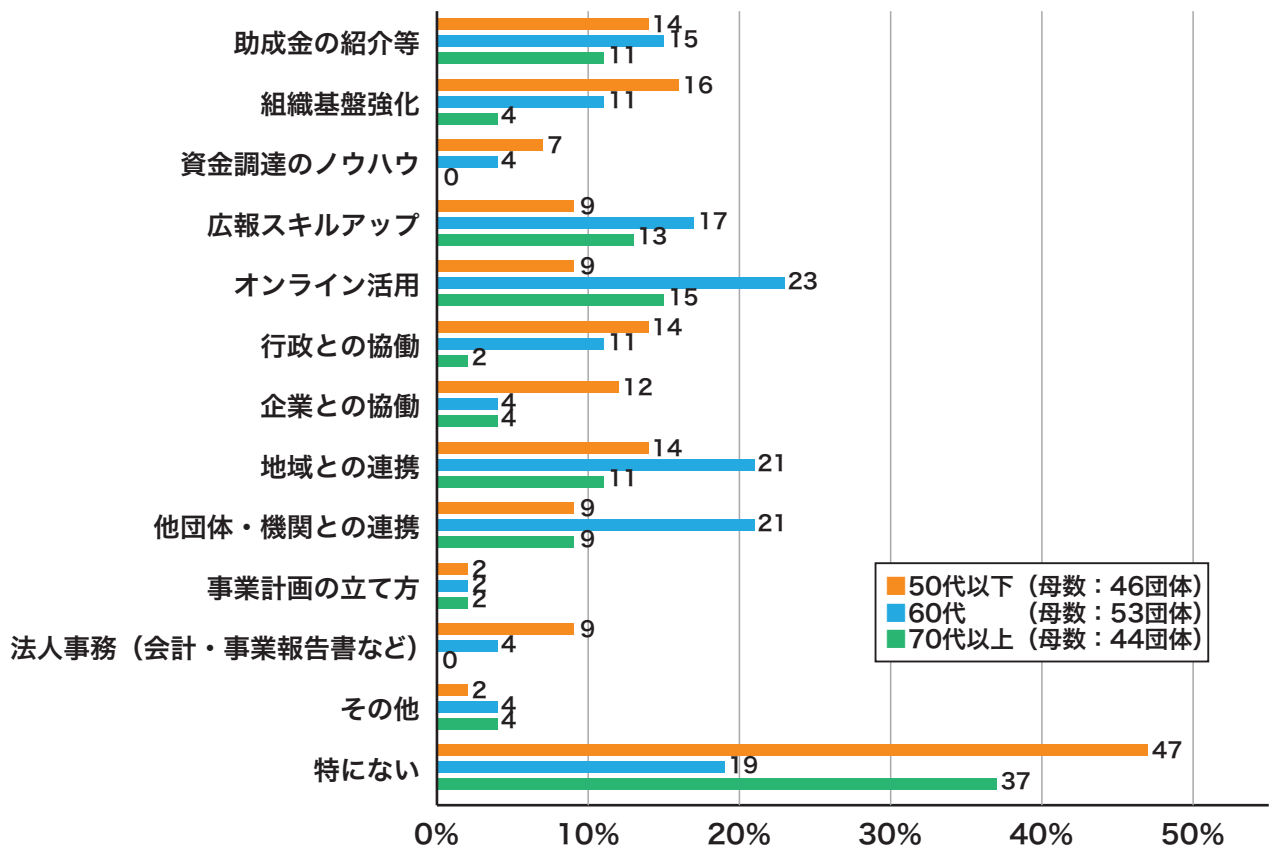
### 10-3：資金調達を課題とした団体（31団体）が必要と考える取り組み



## 11. 今後の活動に必要と思われるもの

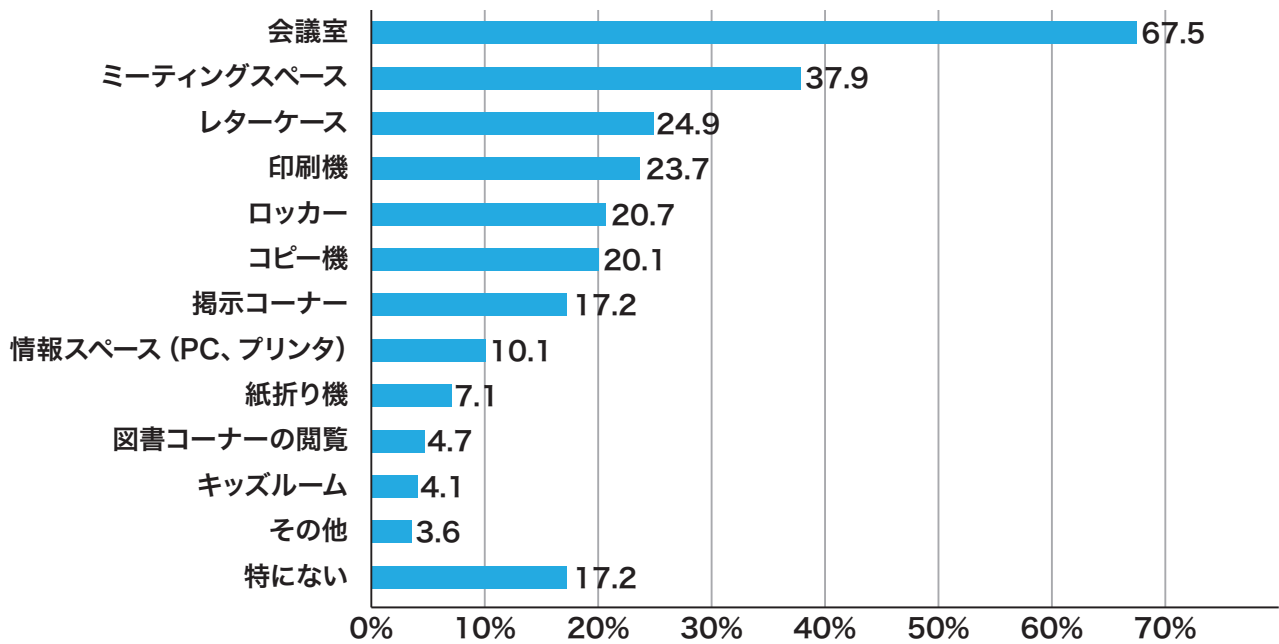


## 世代別「支援が必要」と回答した項目の割合

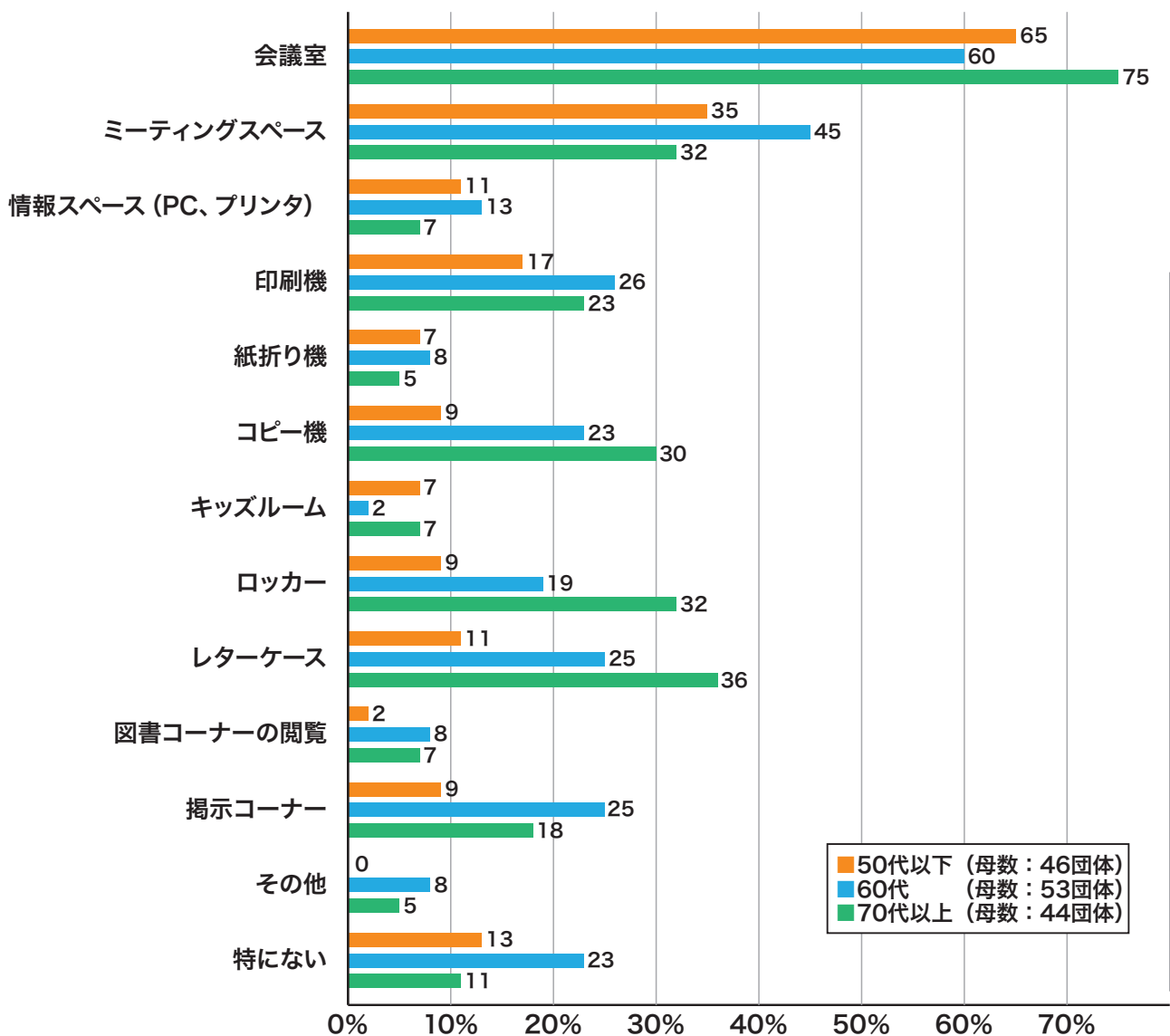


## 12. センターの活用状況

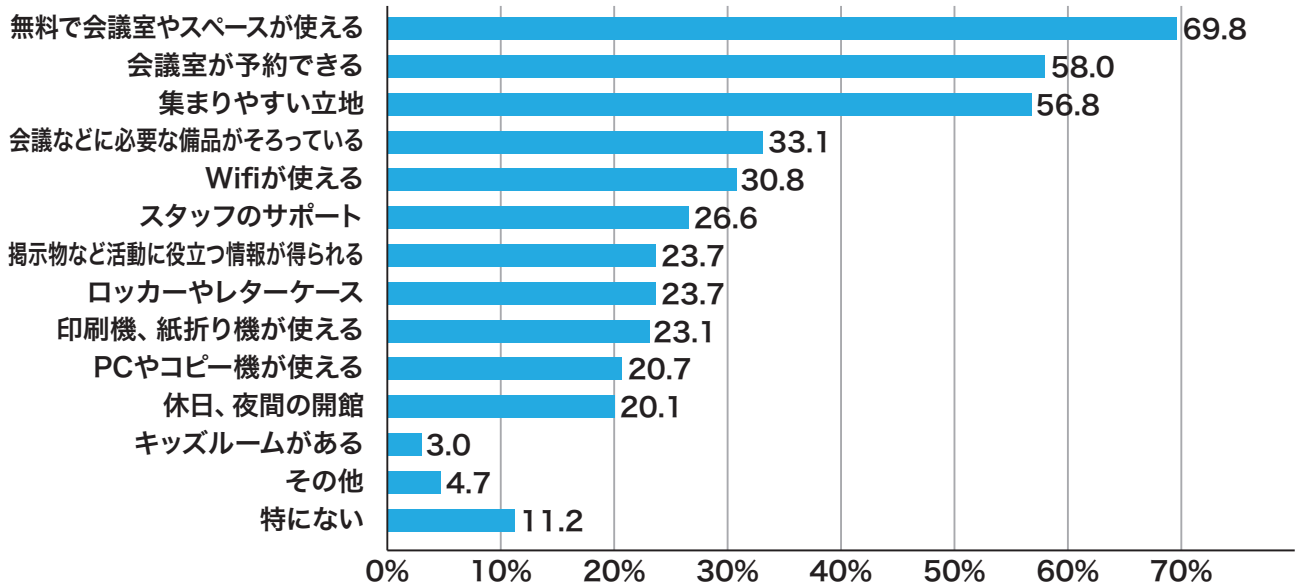
センターの各施設について、169 団体のうち「利用している」と回答した団体の割合



センターの各施設について、「利用している」と回答した団体の割合 (世代別)

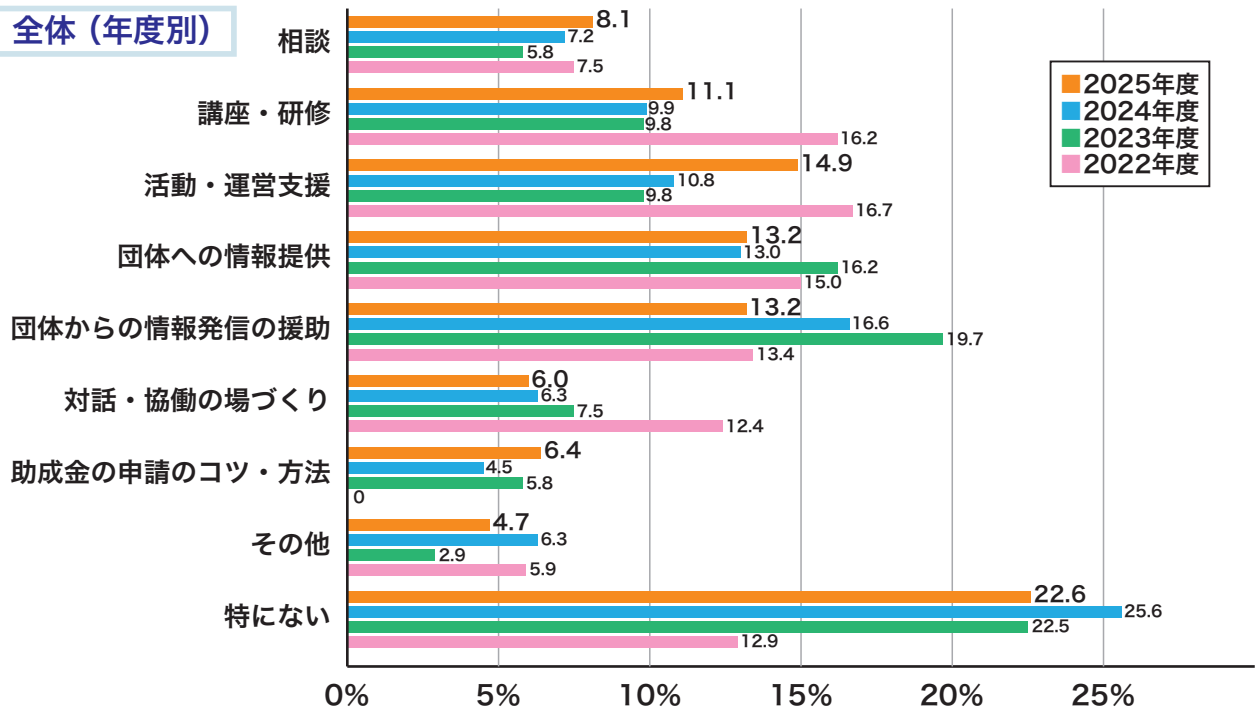


### 13. センターを活用する理由

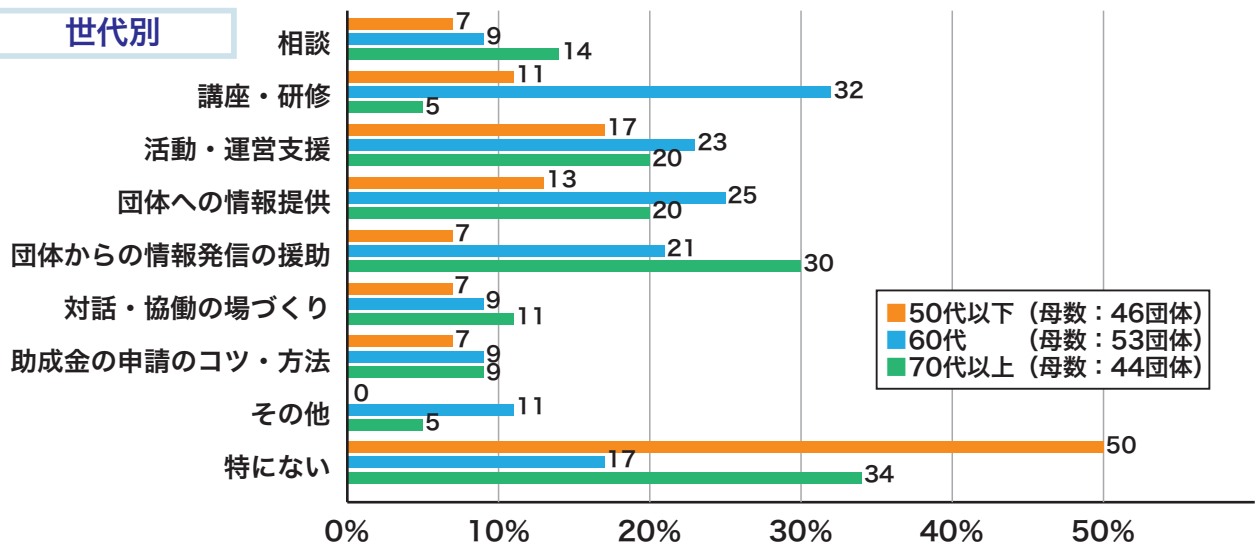


### 14. センターに特に力を入れてほしいと思うもの

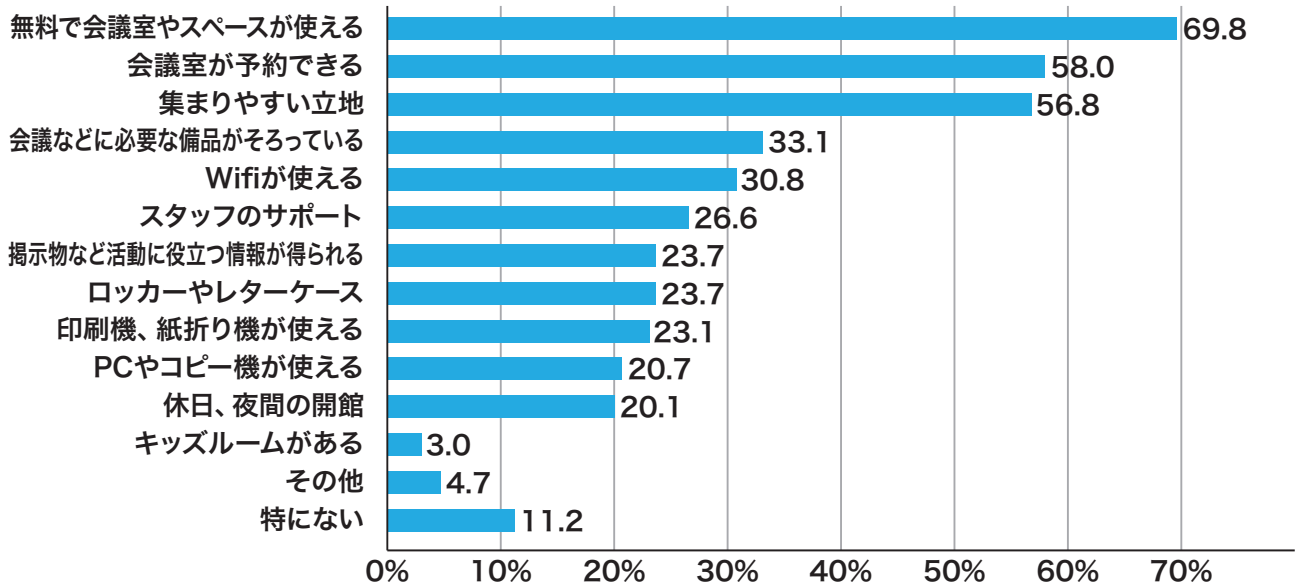
#### 全体 (年度別)



#### 世代別

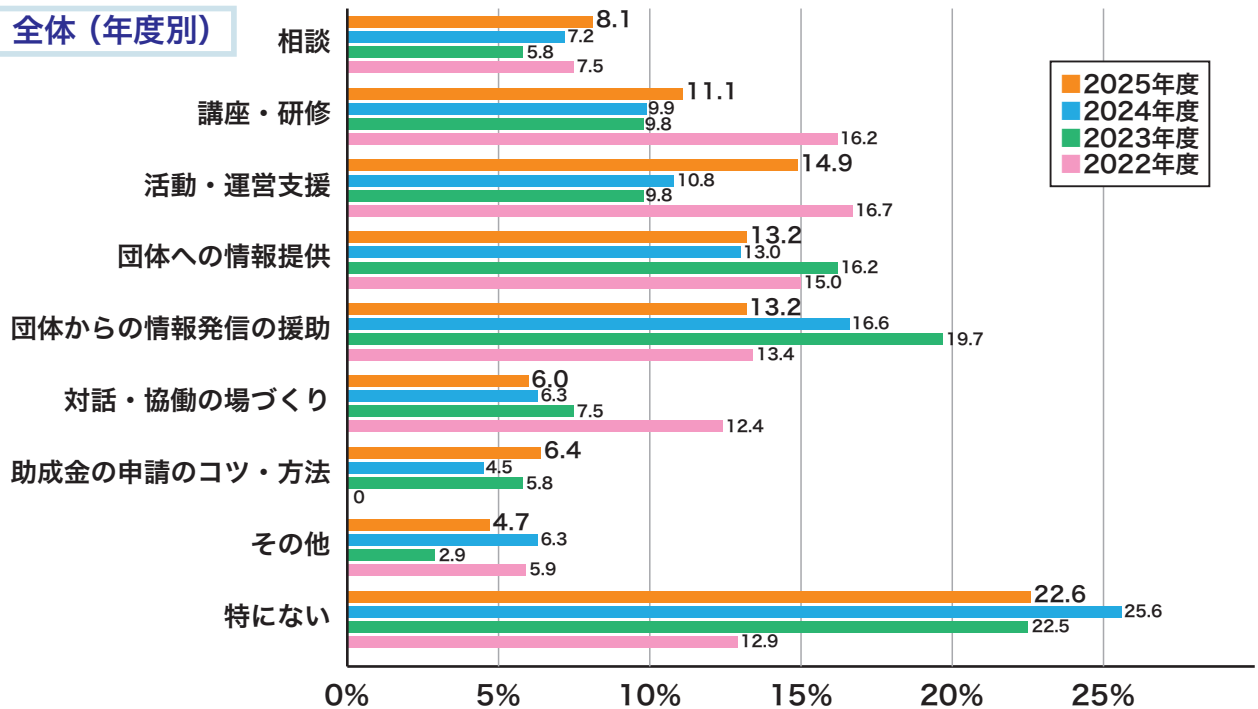


### 13. センターを活用する理由

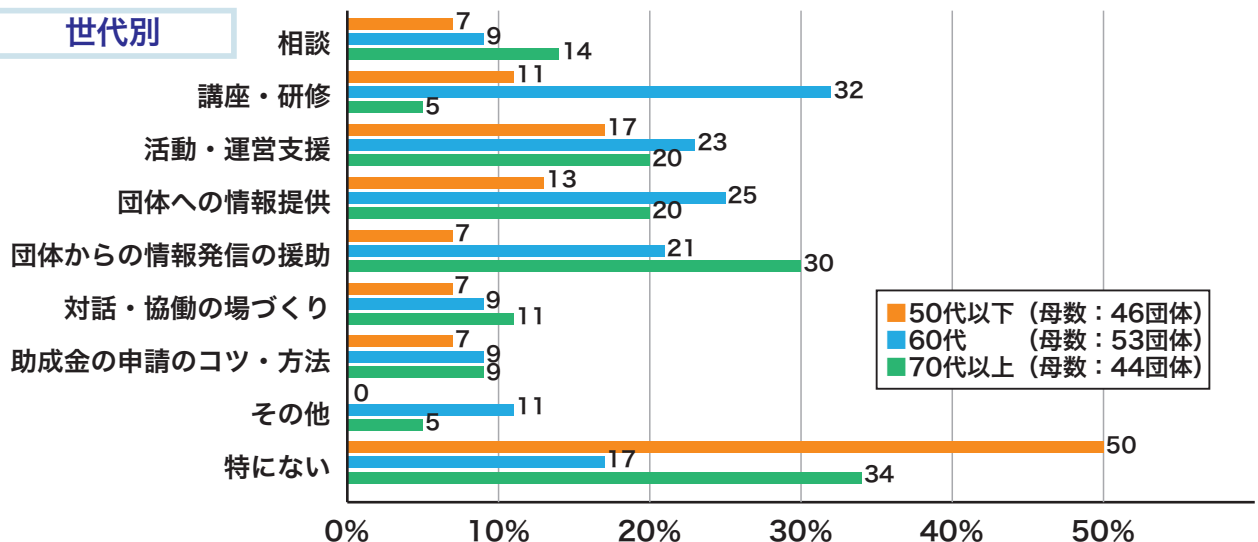


### 14. センターに特に力を入れてほしいと思うもの

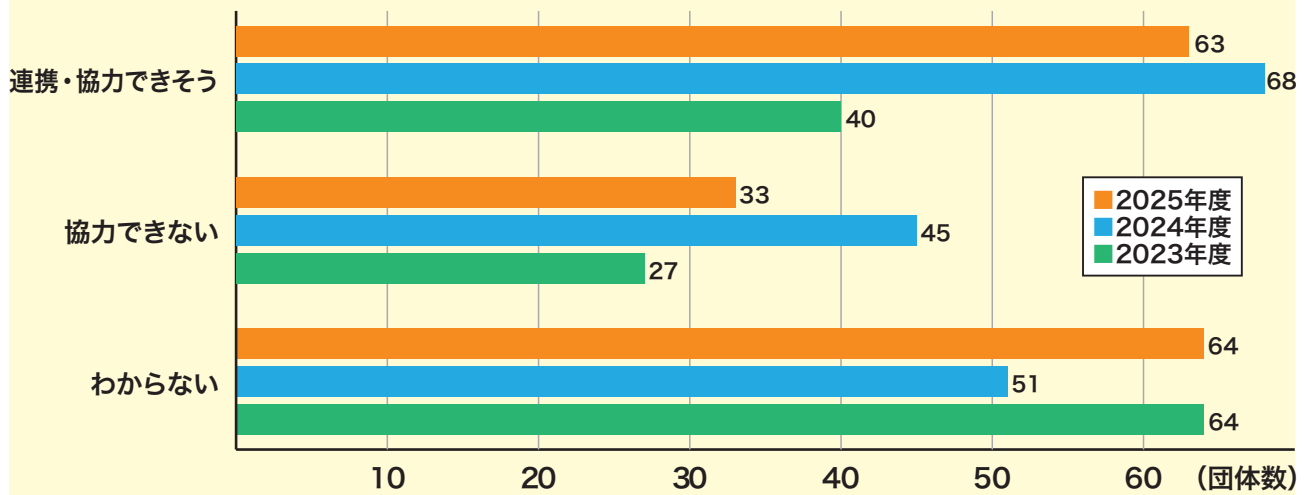
#### 全体 (年度別)



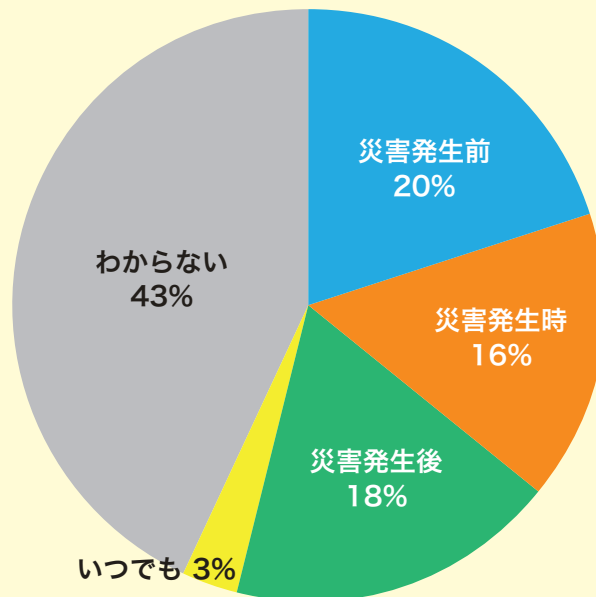
#### 世代別



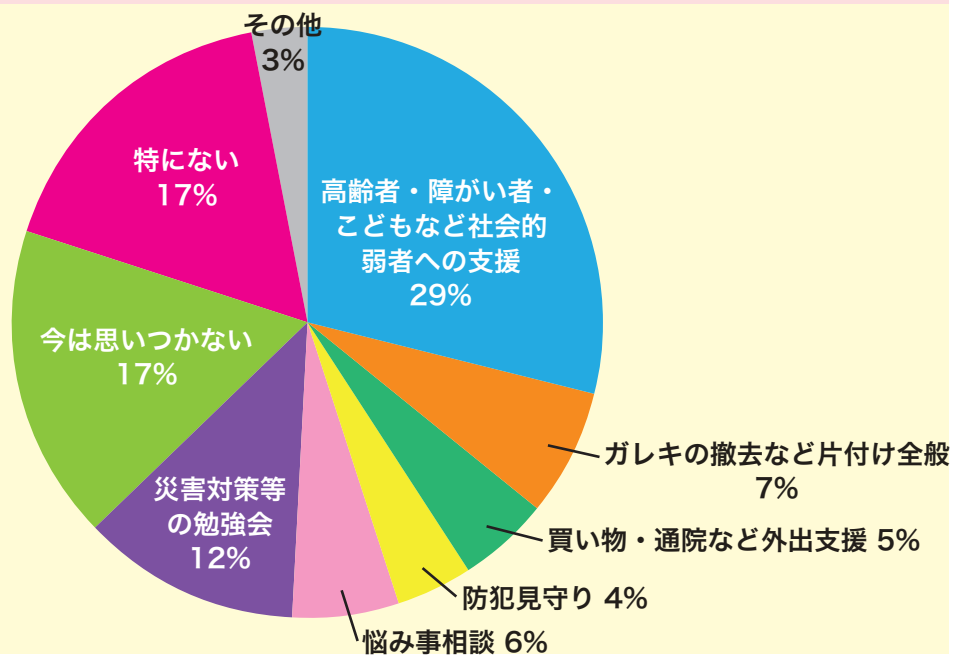
## 16. 防災に関する連携・協力



## 17. どのような局面で連携・協力ができますか？



## 18. 災害時に支援をしてほしいこと



## 防災に関して連携・協力できる具体的内容

- ・ 防犯パトロール実施可能地域のパトロール
- ・ 災害時のボランティア派遣
- ・ 情報の収集と発信
- ・ 避難所での情報提供（ろう者に対して手話で）
- ・ 避難所での炊き出し、手仕事
- ・ 避難所での物資の配布のお手伝い
- ・ 健康相談、給食支援、食事支援
- ・ 薬の相談対応
- ・ 避難所でのヘアカット
- ・ 避難所での傾聴、困っている人との対話、高齢者施設でのお手伝い
- ・ 障害のある方への対応
- ・ ハンドセラピーを使った傾聴
- ・ 避難所での心のケアとして遊びの提供、呼吸法の実施
- ・ 避難所は運動不足になりがちなので、ダンベル体操の指導、生歌でのリフレッシュなど
- ・ 疲れた時の身体のほぐし方、いやし方を伝え元気を取り戻して頂ける
- ・ 体操やストレッチ指導など
- ・ 音楽での治療
- ・ 災害発生後落ち着いてからフラワーセラピー教室として心のケア
- ・ 避難所でのバラグッズの提供で心をいやしたいです。
- ・ 避難所での紙芝居の実演
- ・ 避難先での子ども達との遊び、子供たちへの読み聞かせ、子供たちのケア（学習支援等）
- ・ 朗読を通じ、心の安定をはかるお手伝い
- ・ 避難先におけるペット避難の問題
- ・ 避難所におけるDWATとしての活動
- ・ チェーンソー、刈払機や発電機を貸し出せる
- ・ 多国籍の方への連絡、外国籍市民の要望ヒアリング及び関係機関等への取次
- ・ 地域ごとの災害のリスクの情報提供や災害後の調査協力等
- ・ 災害時の知識、技術の普及活動（講演会）ができる。
- ・ 備蓄品（食材・アレルギーを伝えるツール）の提案、チェック、公的資料の提供
- ・ 放射能被害時のために事前に安定ヨウ素剤を配布
- ・ 地域ごとの災害のリスクの情報提供や災害後の調査協力等

## 今後の市民活動支援に関するご意見・ご要望

### 運営

- ・市民活動支援については市の御努力に満足していますがさらなる支援をお願いします。
- ・定期的にこのような聞きとりがあると、常に情報がブラッシュアップできて良いです。
- ・他の市民活動の皆様ともゆるやかな連携をとり、情報交換しながら進んでいきたいです。
- ・創業以来、活動団体も増えて様々な団体が活動してその支援をされていること素晴らしいです。
- ・いつも支援していただきありがとうございます。今後ともよろしく願いいたします。
- ・市民活動センターのボランティアマッチングで大学生のボランティアに2年間来ていただきました。また、紹介いただけるとありがたいです。
- ・一人でも多くの市民の「ボランティア意識の向上」を目指す活動をセンターに期待しています。
- ・便利に活用させていただいております。今後とも宜しく願いいたします。
- ・団体の高齢化により、存続が危ぶまれている状態です。特に任意団体の継続活動について考えて行く必要がある事を実感しています。
- ・メンバーが高齢で人数が少ないため、現在活動を維持して継続することを目標にしています。
- ・今後も活動に関しまして、様々なアドバイス等をいただけますとありがたく存じます。
- ・今後とも団体の活動状況を市民にPRをよろしく願いいたします。
- ・今まで通りで問題ありません。引き続きよろしく願いいたします。
- ・当団体のスタッフへの人件費は現在代表が個人負担しているため、補助金を獲得したいと考えています。サポートをお願いできればと思っています。

### 情報提供

- ・日頃有用な情報を共有くださいますとありがとうございます。
- ・いままでもいろいろな情報をお知らせいただいております。
- ・情報提供、情報発信の援助・外国につながる人たちも平塚市民であることを周知してほしい。
- ・外国籍市民が更に活用（番組聴取）されるよう支援を望みます。

### 施設

- ・印刷機や特に折り機の不具合が多いため作業に時間を要し他団体と同様に困っております。
- ・A3用紙が保管できるロッカー大が4つしかなくて当選倍率が高い（しかも毎年抽選）
- ・会議室申し込み書は月1枚にし、月5回利用できるようにしてほしい。

### 講座・イベント

- ・土日の研修会、講座は出席ができないものも多く、子どもが家にいてもハイブリット形式などで参加できる機会があるとより多く参加できる。
- ・当会は広範囲に少数の会員がおり、ZOOMやグループLINEの活用で在宅でも参加できる講座が増えるとありがたい。

### 活動場所

- ・ひらつか市民活動センターのように市民が自由に活動できる場をもっと提供して頂きたいです。
- ・場所等の提供を受けられ、大変感謝しています。
- ・いつも大変お世話になっております。場があることが何よりの強味と思います。
- ・平塚市のいろいろな施設が閉館や休館してしまい、今までの市民活動がとても危ぶまれています。行政の力で活動センターのような施設をもっと増設していただきたい。せっかく育ってきた市民活動を絶やしたくありません。平塚市の大きい宝、財産だと思えます。

## まとめにかえて

2003年5月、平塚市にひらつか市民活動センターが開設されてから23年が経ちました。この間、社会は人口減少、地球温暖化、情報の多様化に加え、いつ起こるかわからない大地震への備えなど、地域で向き合うべき課題が一層複雑化しています。

さらに、地域活動の現場では、担い手不足や高齢化といった団体運営に直結する課題も深刻さを増しています。

現在センターに登録いただいている330を超える市民活動団体も、地域のさまざまな課題解決に取り組む一方で、活動を続けるうえでの苦労や不安を抱えていることが、今回のアンケートからも改めて見えてきました。

いただいた声の一つひとつは、センターにとって今後の支援の方向性を考える大切な手がかりです。これらの結果を踏まえ、皆さまが元気に、そして楽しく活動を続けられるよう、引き続き環境整備とサポートの充実に努めてまいります。

活動に関するご相談がありましたら、どうぞお気軽にセンターまでお寄せください。

ひらつか市民活動センター